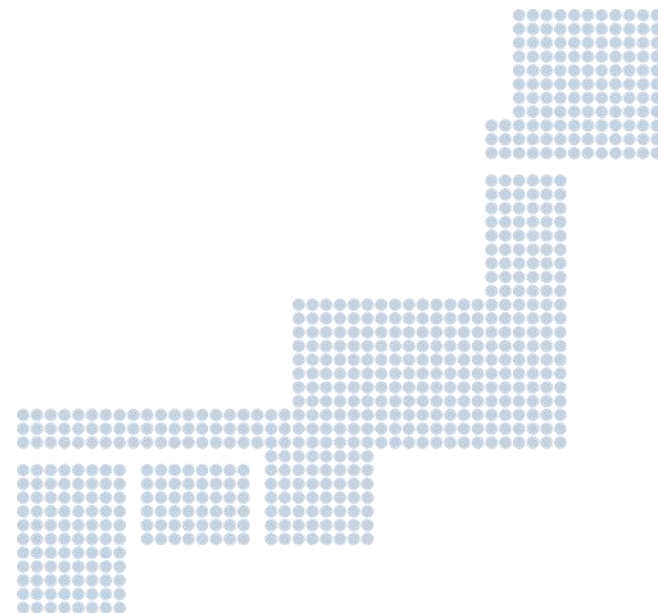


拡大に向けたまとめと 来年度の取り組みについて



第1・2回有識者懇談会の主なご意見

魅力を高める

- ・ インフラそのものの魅力を高めることが重要である。
- ・ インフラが創り出す空間を活かすことも大切である。
- ・ 来訪者の特性に応じたバリエーションを検討していくべき。
- ・ インフラの価値や物語性などのシナリオを持って検討すべき。

持続的に展開していく

- ・ 地域と連携したガイドの育成が必要である。
- ・ 他分野の成功事例も参考にまとめるべき。

拡大の考え方

- ・ 目標を来場者数だけでなく他の視点からも設定できないか。
- ・ Aランクの事例だけでなく、Cランクの事例にも着目すべき。

第3回の議題

1. インフラツーリズム 拡大に向けたまとめ

2. 手引き(案)について

3. 提言(案)について

3-1 2020年に向けた取組

3-2 将来的な取組

1. インフラツーリズム拡大に向けたまとめ

1. インフラツーリズム拡大に向けたまとめ

インフラツーリズムの理念

- インフラツーリズムは、インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの。

◆ インフラツーリズムの拡大を図るために

- ① まず、インフラに来てもらう
- ② そこで、インフラを楽しんで理解してもらう
- ③ そして、地域に滞在してもらう

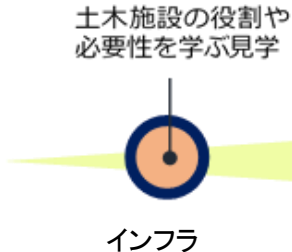
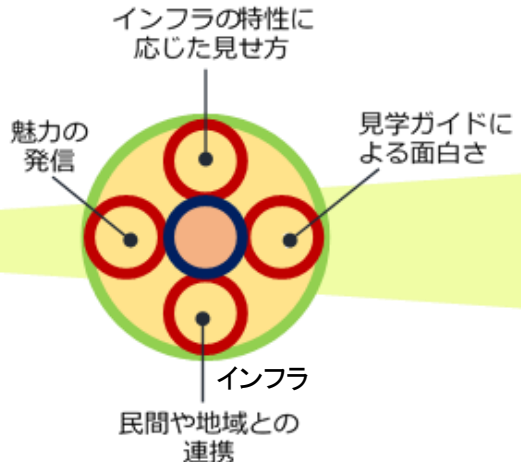
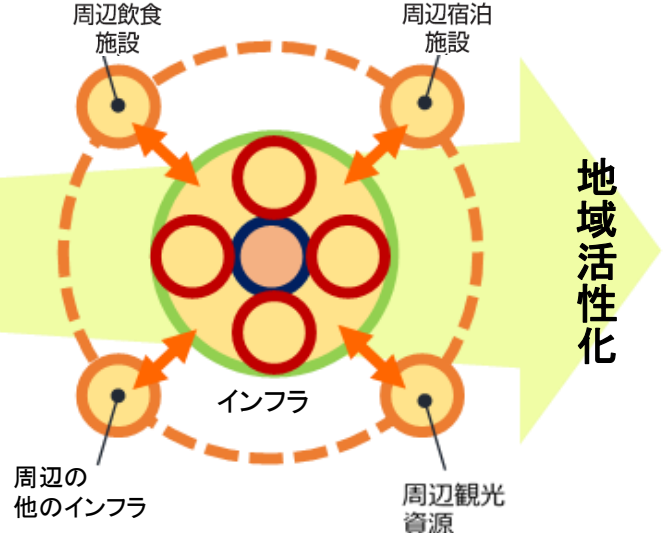


◆ インフラツーリズムによる地域活性化を実現するために

- ・人を呼び込む
 - 魅力的な施設の見せ方を工夫する
 - 魅力を発信する(広報周知)
- ・より多くの人を受け入れる
 - 対応要員を確保する
 - 受入環境を整える
 - 安全性を確保する
- ・持続的に展開する
 - 持続性を確保する
 - 地域と連携する

1. インフラツーリズム拡大に向けたまとめ

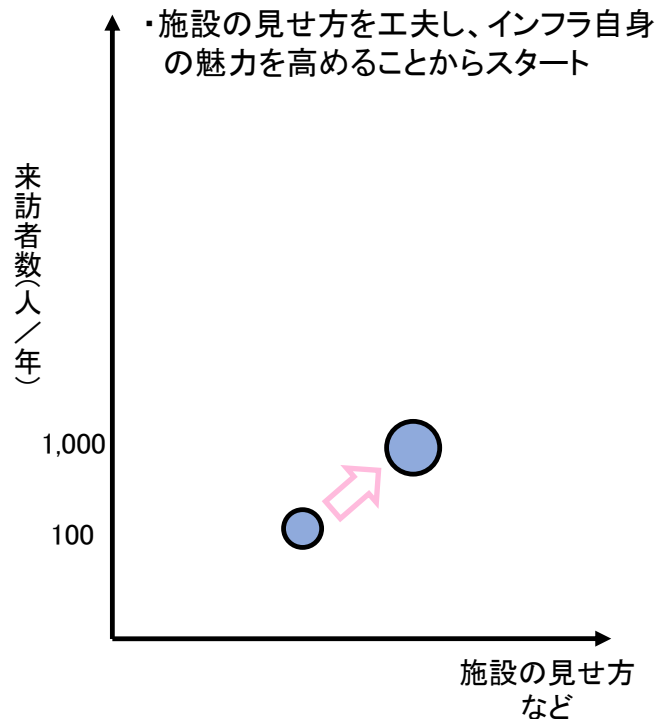
「土木広報としてのインフラの見学会」に付加価値をつけて
 「人を呼べる観光資源としてインフラを磨き上げ」、地域の方々と連携して
 「周辺観光資源への立ち寄りや地域への宿泊を促し」、地域活性化を進めていく。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	土木広報＋付加価値 ～魅力ある観光資源へ～	(土木広報＋付加価値) × 周辺観光資源 ～地域と連携した観光地域づくり～
 <p>土木施設の役割や 必要性を学ぶ見学</p> <p>インフラ</p>	 <p>インフラの特性に 応じた見せ方</p> <p>魅力の 発信</p> <p>見学ガイドに よる面白さ</p> <p>インフラ</p> <p>民間や地域との 連携</p>	 <p>周辺飲食 施設</p> <p>周辺宿泊 施設</p> <p>インフラ</p> <p>周辺の 他のインフラ</p> <p>周辺観光 資源</p> <p>地域 活性化</p>
土木広報としてインフラの見学会を実施している段階	インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階	インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階

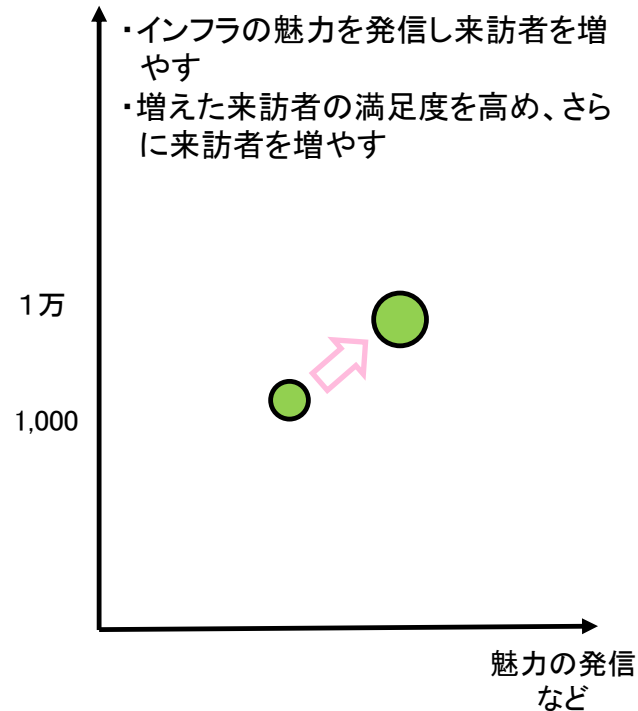
1. インフラツーリズム拡大に向けたまとめ

○ それぞれがレベルアップしていくためには、現状でのインフラへの来訪者数を目安に、各インフラが目指す方向性に沿った取組から始めることが効果的。

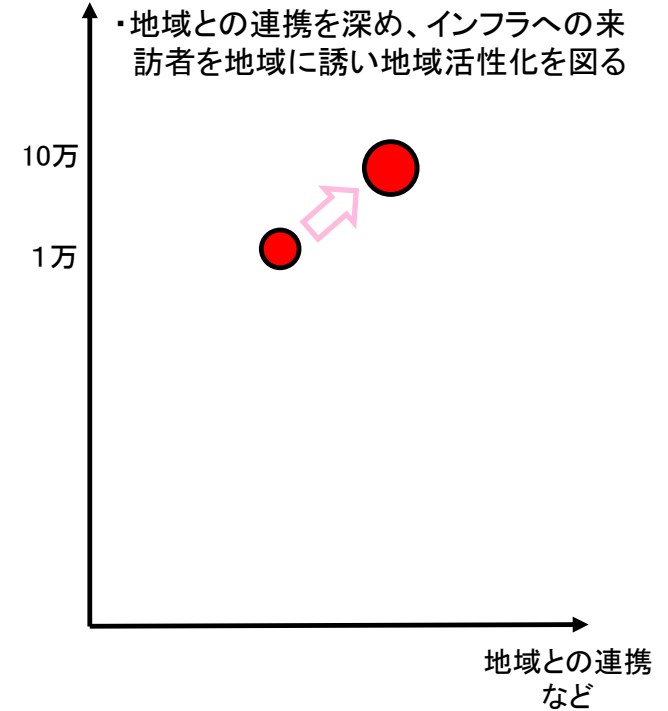
知名度を上げたい施設
(これから推進していく施設)



来訪者を増やしたい施設
(ある程度来訪者が来る施設)




地域と連携したい施設
(人が大勢来ている施設)



1. インフラツーリズム拡大に向けたまとめ

○ 基本となる土木広報に、+αの付加価値をどう付けるか、持続的に展開していくかのポイントを「勘所(かんどころ)」として整理

区分	アイコン	勘所	勘所の内容
人を呼び込むための工夫		施設の見せ方	来訪者がインフラ施設を楽しめる見せ方や活用の仕方の工夫
		魅力発信	インフラの魅力や価値を情報発信していくにあたっての工夫
人を受け入れるための工夫		対応要員の確保	来訪者の増加や土日開放に対応するための要員確保の工夫
		受入環境の確保	トイレや駐車場等の受入環境を確保するための工夫
		安全性の確保	来訪者の安全を確保してインフラ見学を実施するための工夫
持続的に展開するための工夫		持続性の確保	一過性のイベントとしてだけでなく、定期的に開催するための工夫
		地域との連携	地域と連携して魅力的なツアーとする工夫や来訪者を周辺観光資源に導く工夫
		インバウンドへの展開	増加する訪日外国人旅行客を受け入れるための工夫

1. インフラツーリズム拡大に向けたまとめ

○ 課題を解決していくためのヒントとして「勘所」を以下に分け整理。

1.人を呼び込むための工夫

2.人を受け入れるための工夫

3.持続的に展開するための工夫

1. 人を呼び込むための工夫

【施設の見せ方】

1) 施設の魅力を高める見せ方



どこを、どのように見せると、“迫力があるか／驚きがあるか／楽しいか／…”等を考え工夫する

2) インフラが生みだした空間の活用

インフラが生みだした空間や景観の「場」としての活用方策を検討する

【魅力の発信】



1) 施設管理者による情報発信

イベント情報は、分かりやすく、早めに周知していく

2) 多様な主体との連携による情報発信

情報発信は“情報を伝える”から“魅力や価値が伝わる”へ転換し工夫する

1. インフラツーリズム拡大に向けたまとめ

2. 人を受け入れるための工夫

【対応要員の確保】



1) 民間事業者との連携

観光需要が高い土日祝日での開催や受け入れ枠拡大に向けて、施設管理者主体の対応が難しい場合は、民間事業者、NPO、ボランティア等と連携する。

【受入環境の確保】



1) 現場における受け入れの工夫

参加人数が増えた際に、現状の施設環境のなかで対応するために工夫する。

2) 周辺施設との連携

インフラ側でトイレや駐車場等を十分に整えることが難しい場合は、周辺施設と連携する。

【安全性の確保】



1) 事故を回避する対策

観光資源としての活用が想定されていないインフラの内部などを開放する場合は、十分に安全性を確保する。

1. インフラツーリズム拡大に向けたまとめ

3. 持続的に展開するための工夫

【持続性の確保】

1) 地域の協議会等での運営



インフラの観光資源としての活用について、地域の方々と連携し理解を得ながら実施していくため、地元関係機関等からなる協議会等により運営する。

2) DMOや旅行会社等との連携による継続性確保

DMOや旅行会社等のノウハウを活かし幅広くインフラツーリズムを展開していく。

【地域との連携】

1) 周辺観光資源との組み合わせ



インフラツーリズムを地域活性化に繋げるため、観光客が地域で滞留するように周辺観光資源と連携する。

【インバウンドへの展開】

1) 多言語対応と観光資源としての魅力発信



訪日外国人旅行者にもインフラツーリズムを楽しんでいただくため、日本のインフラの機能性や土木技術の高さ等が伝わる工夫をする。

2. 手引き～試行版～の進め方(案)について

2. 手引き～試行版～の進め方(案)について

「手引き～試行版～」の活用方針

2018年度

整理した「勘所」をもとに、「手引き～試行版～」として作成

2019年度

モデル地区での「プロジェクト」などを通じて
施設管理者中心に運用試行

2020年度

周辺観光資源の関係者へも拡大

2. 手引き～試行版～の進め方(案)について

「手引き～試行版～」の構成

1. 現状と課題
2. インフラツーリズムの拡大に向けて
 - 拡大に向けた考え方
 - 全体のレベルアップでインフラツーリズムを拡大
 - 課題への対応
3. インフラツーリズム拡大の勘所
 - 「勘所」の概要
 - 「勘所」の使い方
 - 人を呼び込むための工夫
 - より多くの人を受け入れるための工夫
 - 持続的に展開するための工夫
4. 先進事例の取り組み
 - 事例紹介(10事例)
5. 実施にあたっての留意点

3. 提言(案)について

3-1. 2020年にむけた取組

3-2. 将来的な取組

3-1. 2020年に向けた取組

- インフラツーリズム拡大に向け整理した「勘所」を活用して全体のレベルアップを図り、国内外に向けてインフラツーリズムの魅力を発信するなど、来訪者の増加に向けた「プロジェクト」を実施する。
- 「プロジェクト」では、施設の見せ方や体制の確保、地域との連携等を具体的に現地で実行するための社会実験をモデル地区で実施し、より一層魅力的なツアーの造成、広報の展開、インバウンドへの対応を図る。

■ 2020年に向けたプロジェクト

～ インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト（仮称）～

【プロジェクト・メニュー】

1. モデル地区での社会実験の実施

→「勘所」を踏まえて社会実験を実施し、知見を様々な事業へ展開する

2. 国内外に向けた魅力ある広報を展開

→インフラツーリズムの認知度を高め、来訪者の増加を図る

3. 訪日外国人旅行客のニーズを把握したインバウンド対応

→増加する訪日外国人旅行客の旅行ニーズを把握し適応する

3-1. 2020年に向けた取組

プロジェクト1 モデル地区での社会実験の実施

1) モデル地区を5箇所程度選定し、魅力的なツアー造成に向けた取組を「社会実験」として実施。

インフラ施設と地域との連携（イメージ）

地域の観光資源



人気の自然スポット



インフラ施設の観光資源化



地域のおみやげ



構造を活用したコンサート



地元観光ガイドの育成・活用

温泉地での宿泊



3-1. 2020年に向けた取組

プロジェクト1 モデル地区での社会実験の実施

2) 社会実験を通じて、インフラツーリズム拡大の具体的手法の知見を得る。

1. 資源の調査

- ・周辺観光資源の調査
- ・インフラの調査(視点場、開放可能性、現状の満足度調査等)

2. 地域資源を活用したツアーの企画

- ・ストーリーのあるツアーの組み立て
- ・シナリオの作成
- ・説明要員の育成

3. ファムツアー※(下見招待旅行)の実施

- ・旅行会社、訪日外国人旅行者、留学生等を対象にニーズを把握し、ツアーを実施
- ・アンケートやヒアリング等により意見聴取

※Familiarization Tour: 旅行事業者やメディアなどに現地を視察してもらうツアー

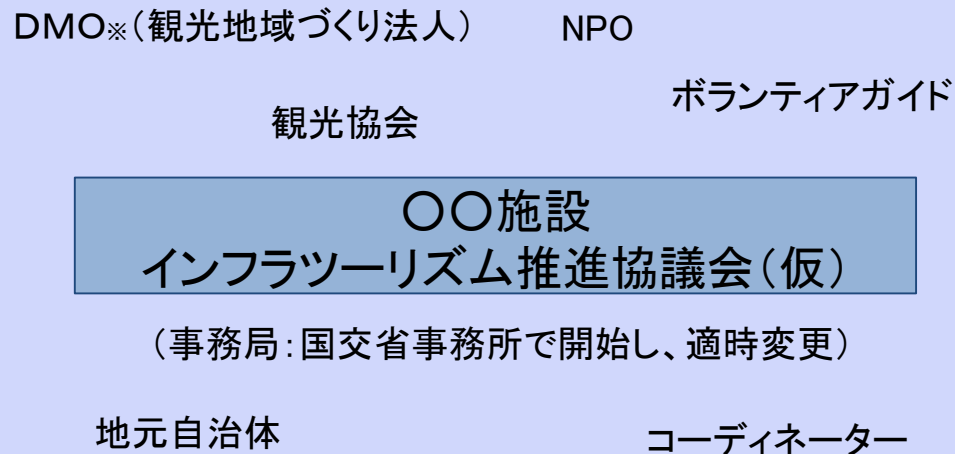
4. 持続的な体制づくり

- ・持続的にツアーを実施するための体制を検討
- ・より満足度を向上させるために必要な施設整備等を整理

3-1. 2020年に向けた取組

プロジェクト1 モデル地区での社会実験の実施

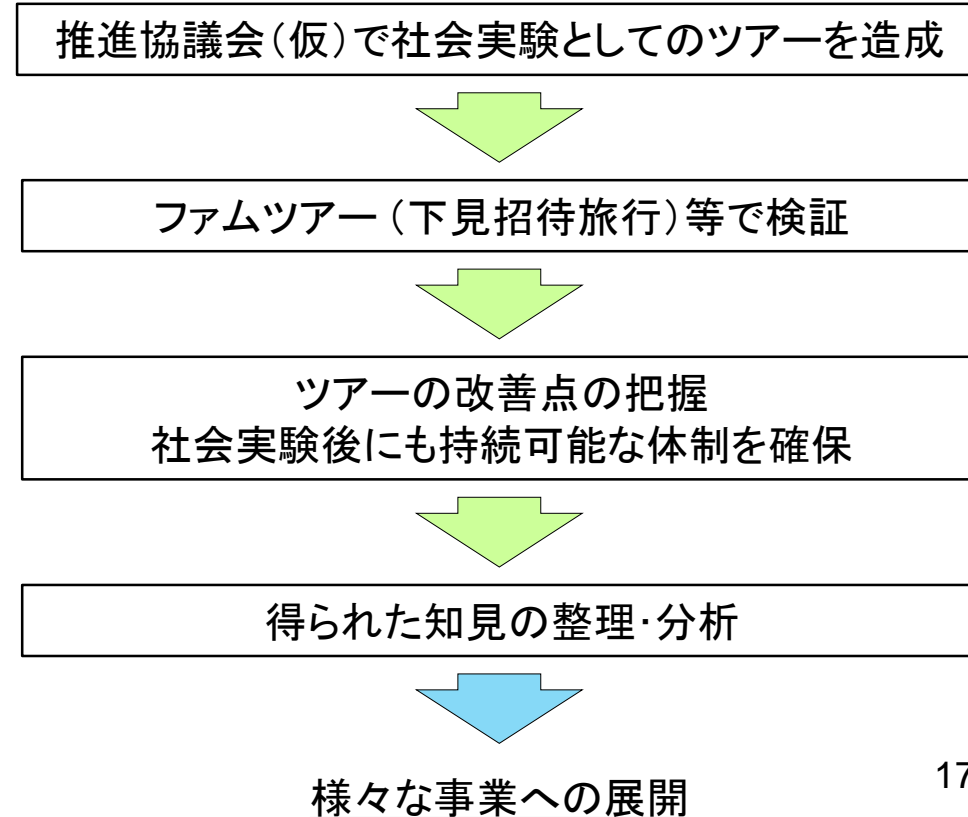
- 3) 社会実験後にも持続的に展開できるよう、各施設ごとに「インフラツーリズム推進協議会(仮)」を設置し、地域と連携した体制づくりやツアー造成等を実施する。
- 4) 社会実験後、ツアーを企画・運営できるよう観光協会やDMO(観光地域づくり法人)等と連携して実施する。



協議会(仮)での検討内容

- ・インフラ施設の使い方
- ・周辺観光資源との連携方策
- ・ツアーの運営主体
- ・ガイドの育成

【ツアー造成の検討例】



3-1. 2020年に向けた取組

- 全国の様々な段階にあるインフラの取組みに役立つ知見を得るため、モデル地区は「これから推進していく施設」と「更なるレベルアップを図る施設」の2パターンで設定。
- 2019年度は直轄管理施設及び会社管理施設を対象に各施設管理者からの推薦と委員の現地調査(5~6月頃)を踏まえて決定。

	パターン1: これから推進していく施設	パターン2: 更なるレベルアップを図る施設
対象要件	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラツーリズムを推進することに積極的であること。 ・周辺地域と連携する体制が準備されること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既に一定程度の来訪者があり、インバウンドを含め今後更なる来訪者の増加を目指していること。 ・周辺地域と連携する体制が開始されていること。
共通要件	<ol style="list-style-type: none"> ①インフラ単独の取組ではなく周辺観光資源等との組み合わせが可能で、社会実験後も継続性が見込めること。 ②地域経済に寄与できるメニュー(食事、宿泊、土産物)を組込めるまたは開発可能なこと。 ③地元の歴史や自然等に詳しい有識者と連携可能なこと。 ④旅行業の資格がある組織と連携し旅行商品として売り出すことが可能であること。 	

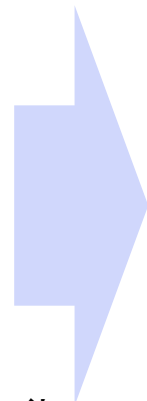
3-1. 2020年に向けた取組

プロジェクト2 国内外に向けた魅力ある広報の展開

- 1) 国土交通省HP内の「インフラツーリズムポータルサイト」の充実・多言語化
 リニューアルによりインフラツーリズム関連の分かりやすい情報発信を実施

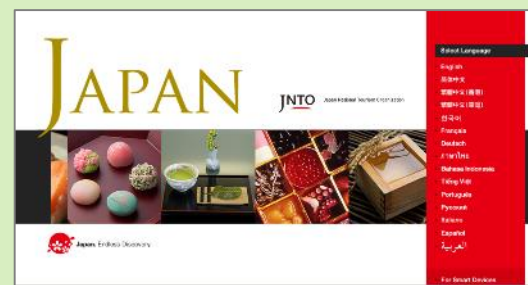


現在のインフラツーリズムポータルサイト



- ①既存のポータルサイトの多言語化
 ②国土交通省の観光関係の情報を収集し、ポータルサイトで発信

(例)



分かりやすい動画で情報発信
 (JNTO)



国立公園満喫プロジェクト[英語版]
 (環境省)

2) インフラツーリズムに関するシンポジウム開催

インフラツーリズムに関するシンポジウムを開催しインフラツーリズムの認知度を高める

(イメージ)



パネルディスカッション



ポスターセッション

3-1. 2020年に向けた取組

3) インフラツーリズムPR動画の製作

ドローン等も活用し、魅力あるインフラツーリズムのPR動画を製作し、HP等で公開

▼PR動画のイメージ（東北地整管内で作成）



4) インフラツーリズム情報誌の製作

インフラツーリズムの魅力を発信するために情報誌を製作

▼インフラツーリズム情報誌のイメージ



3-1. 2020年に向けた取組

プロジェクト3 訪日外国人のニーズを把握したインバウンド対策

1) モデル地区におけるファムツアー時におけるニーズ把握

ファムツアー時に訪日外国人旅行客の意見を把握し、施設の見せ方、受入環境の整備などのニーズを把握する。



2) 海外WEB調査によるニーズの把握

インフラツーリズムのニーズが見込まれる国等に対して海外WEB調査を実施し、インバウンド旅行におけるインフラツーリズムのニーズ把握を行う。



3-1. 2020年に向けた取組

○ プロジェクトの指標と目標は、以下のように想定。

国立公園満喫プロジェクト

(1) 訪日外国人国立公園利用者数
2015年 490万人 → 2020年 1,000万人

(2) 質の指標

国立公園の訪日外国人旅行消費額
国立公園周辺外国人延べ宿泊者数
国立公園での外国人リピーター率
先行8公園での満足度

他事業の指標・目標を参考に想定

DMOが設定しなければならないKPI

- 1) 旅行消費額
- 2) 延べ宿泊者数
- 3) 来訪者満足度
- 4) リピーター率

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトの 指標と目標について

1) 社会実験を行うモデル地区での指標

- 「旅行消費額」の増加 → 地域との連携
交通費・宿泊費・食費等の地域での消費
- 「満足度」の向上 → 施設の見せ方
地域での観光・施設の見せ方等の満足度
- 「リピーター率」の向上 → 魅力発信・施設の見せ方
インフラツーリズム全体・施設単体のリピーター率
- 「施設来訪者数」の増加 → 魅力発信

アンケート調査より把握

2) 市民意識における指標 (WEB調査2018年を基準)

- 「認知度」 インフラツーリズムを知っている 16% → 向上
- 「来訪度」 見学したことがある 15% → 向上

3) インフラ施設への来場者数

2017年 50万人 → 2020年 100万人

3-1. 2020年に向けた取組

○ プロジェクトのロゴマークを作成し、インフラツーリズムの取組で使用する。



二つの○の色は「水」と「国土」を表すと共に、インバウンドを意識して「海＝海外」から「日本」に、『大勢の方々に来ていただく』という意味と願いを込めている。

日本(国土)を支えているのはドボクでありインフラである。そんな全国各地のインフラを、巡っていただきたいという、意味と願いを込めている。

インフラに行きたくるようにイメージ。インフラに続く道を表現し、様々なところからインフラ観光に来てもらいたいという意味と願いを込めている。

3-2. 将来的な取組

■ 次年度以降の検討課題

(1) インフラツーリズムのさらなる魅力向上

- ・モデル地区で得られた知見を様々な事業へ展開
- ・ガイドの育成による魅力の向上（他分野の先進事例の整理）
- ・リピーター確保に向けた満足度向上のための検討
- ・さらなる情報発信の推進

(2) 民間事業者の参入によるさらなる展開

- ・民間事業者参入の推進に向けた検討

(3) 地域とのさらなる連携強化

- ・歴史・地形などの地域資源との連携によるインフラツーリズム全体の魅力向上
- ・地域への経済波及効果増大の方策の検討